

## 鳥取県立中央病院機能強化の方向性について

H25.2.26

鳥取県立中央病院

## I 中央病院の概要

## 1 診療科目等 24科、3センター

内科、神経内科、心臓内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科、救命救急センター、周産期母子センター、地域連携センター、健診室、血液浄化室、内視鏡室、化学療法室、画像診断室、新生児集中治療室、がん相談支援室

## 2 許可病床数 431床

一般病床 417床  
結核病床 10床  
感染症病床 4床

3 施設概要 35,831m<sup>2</sup>

本館 26,669m<sup>2</sup> (S50.5築 地上7階、地下1階)  
外来棟 7,051m<sup>2</sup> (H8.9築 地上2階)  
血液浄化室棟 456m<sup>2</sup> (S56.3築 地上1階 透析、院内保育所)  
その他 1,655m<sup>2</sup> (S50.5築他 医療ガス庫、カルテ保管庫等)

## 4 主な機能

救急救命センター  
地域周産期母子医療センター  
地域がん診療連携拠点病院  
地域医療支援病院  
基幹災害医療センター  
第2種感染症指定医療機関  
臨床研修指定病院

## 5 職員数 正職員 649人 研修医 20人 非常勤 144人 計 813人

医師 81人 20人 2人  
看護師 435人 - 27人  
医療技術職 82人 - 14人  
その他 51人 - 101人

## 6 診療実績

(単位：人、日、%、回、百万円)

区分		H22年度	H23年度	H24年度
入院	1日平均患者数	361.2	367.7	372.3
	平均在院日数	14.0	14.3	13.8
	病床利用率	83.8	85.3	86.4
	新入院患者数	8,794	8,799	9,137
外来	1日平均患者数	703.9	697.7	705
	平均通院回数	11.4	11.1	10.9
	新規外来患者数	15,061	15,390	16,142
医業収益		9,662	9,901	10,534

※H24年度欄は12月末時点の実績等を基に推計した見込値。

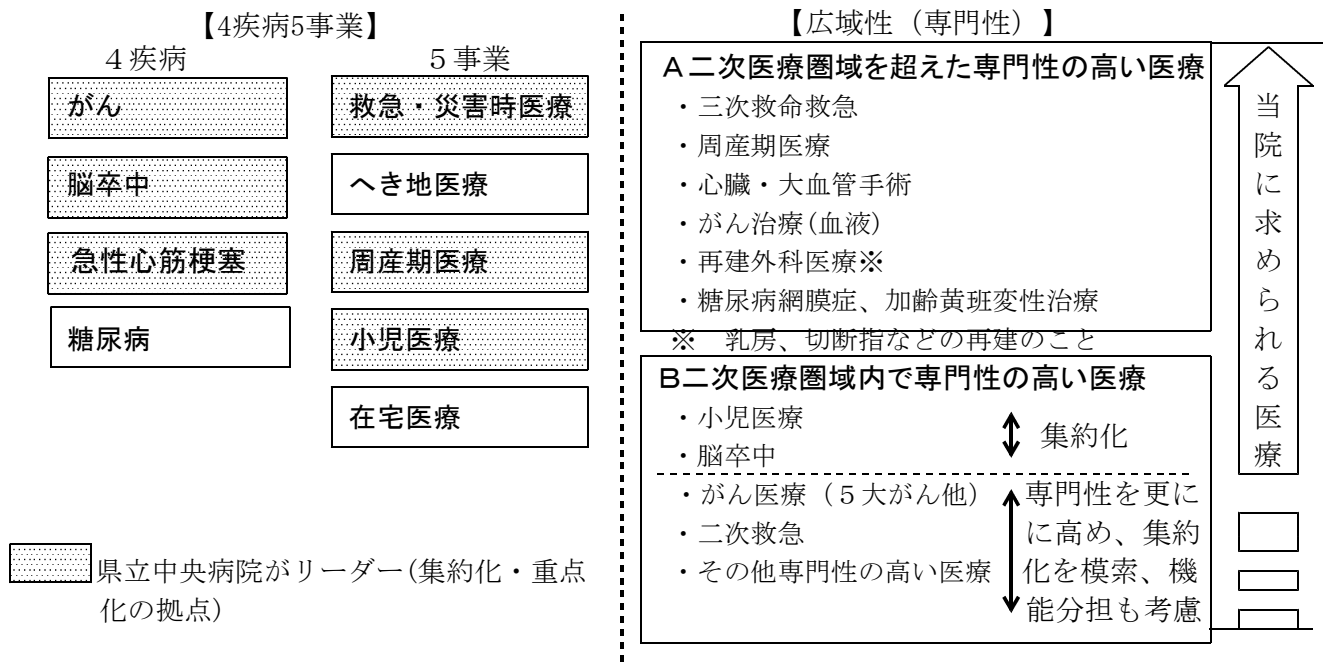
## II 県立中央病院を取り巻く環境

東部医療圏では、医師の引き上げが顕著になってきており、圏域内の医療機能の低下が危惧される。診療科によっては県立中央病院への一極集中が生じている。

また、東部医療圏には同規模で救急などの同様の機能を有する公的病院が3つ競合しており、高額な医療機器を各病院が有するなど経営的には非効率的な環境となっている。そのような中であって、これらの医療機関との間で、医療機能面における選択と集中を進め、圏域内での効率的な医療提供を目指す必要がある。県立中央病院は、他の医療機関では対応が困難な三次救急医療、周産期医療、小児医療、がん医療などを県立病院として担っている。

## III 県立中央病院の担うべき役割

- 困難な高度・先進的な医療、三次救命救急医療、周産期医療、小児医療、がん医療、災害医療等の分野において中心的な役割。
- 圏域は東部地域にとどまらず、中部地域、兵庫県北部も実質的な対象エリア。
- 初期・後期の医師臨床研修や看護学生の臨地実習などの研修施設としてこれまで多くの人材を受け入れ・育成してきており、今後も地域医療における人材の育成機関としての役割。



#### IV 県立中央病院の問題点

##### 1 医療従事者の確保

県の基幹病院として、高度・先進医療を提供する役割が求められており、その役割を果たす上では医師、看護師などの医療従事者が不足している。

##### 2 施設・構造

- 救急外来～手術室～救命救急センターの動線が非効率である。
- ドクターヘリの運用など搬送体制の強化に伴う重症患者の増加に対応するためには、施設面が狭く救命救急センターの効率的な運用ができない。
- 病棟及びナースステーションが狭く、衛生面・施設面及び患者サービス面で問題がある。
- 5人部屋が50室以上と全病室数の3分の1を超えており、院内感染対策、プライバシーの保護など患者療養環境が悪い。
- エレベーターの数が不足しており、院内の患者搬送に支障をきたしている。

上記のほか、全般的に狭隘化が顕著で会議室の確保、大型医療器機の導入等に支障を来しており、近い将来、建て替えが必要である。

##### 3 救急患者の受入体制

平均在院日数は短くなっているが、恒常的に長期入院（30人～40人）が生じているとともに、一般病床稼働率の上昇により救急患者の受入に支障が生じている。他方、退院調整においては転出先が確保できず、患者の院内滞留が生じている。

※平成25年2月の一般病床稼働率 95.2%（平日のみ 97.7%）

#### V 県立中央病院の機能強化の方向性(検討方針)

